

講義名	教育課程論【教職科目】			授業形態	
担当教員	田邊 良祐	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

本授業では、学校教育において、教育活動全体の計画たるカリキュラムや教育課程に関する歴史、理論及び実践に触れながら、教員として教育課程の編成に関する最低限必要な知識の獲得、及び実際のカリキュラム・教育課程の編成ができることを目的とする。
 具体的には以下の目標を達成することを演習を交えて目指し、その知識技能の到達度を評価する。

到達目標

- 目標1 カリキュラムと教育課程の違いを論理的に説明することができる。
- 目標2 カリキュラムの種類とそれぞれの特徴について説明することができる。
- 目標3 学校教育における学習指導要領や教科書の法的位置付け、教員の実践との関係性について説明することができる。
- 目標4 学習指導要領の変遷を、各年代の学習指導要領の特徴やキーワード等、それぞれの具体的な内容に触れながら説明することができる。
- 目標5 学習指導要領や学校関係法規、学校の物的・地理的資源を踏まえ学校における「カリキュラム」を編成することができる。

提出課題

各授業回の学びの振り返りとカリキュラム・教育課程の編成に関する自身の教員としての今後の課題を記入するポートフォリオ。なお、各項目フォーマットの5行分、約120文字以上を採点の対象とし、期日（授業日の登壇中）に遅れたものについては採点の対象としない。公文については提出締め切りを1週間前とする。
 ・ 授業内容を踏まえた、カリキュラムの編成に関するレポート

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオのやり取りを通して、質問があれば返却時にコメントを付して回答する。

評価の基準

ポートフォリオ(3点×15回) 45点
 授業内で設計したカリキュラム案(5点×5回) 25点
 期末レポート 30点

履修にあたっての注意・助言他

本授業を受講するまでに履修可能な授業の内容については既知のものとして取り扱う。
 また、入学時に購入が推奨されているノートパソコンまたはタブレットを持参することを推奨する。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.なし。					
------	--	--	--	--	--

その他

- 本授業の内容に関連する文献を以下の通り示す。
- ・紙渕朋美編著『JINZINはじめて学ぶ教職 教育課程』ミネルヴァ書房、2019年
- ・フレック・フェルトハウズ著、リヒテルズ直子訳『イェーナプランに生きることを学ぶ学校』ほんの木、2020年
- ・大阪府立西成高等学校「反貧困学習指導要領の連続を断つために」解放出版社、2009年
- ・編分課学、編分ズナ「編成のグループエンカウンター理論と方法 半世紀にわたる探求の成果と継承」図書文化社、2016年

授業計画

本授業は、大きく3つの内容で構成する。
 講義：カリキュラムに関する基本的な知識を獲得する
 カリキュラムに関する理論、学習指導要領の現在とその変遷、学習指導要領と教科用図書の関係など、教育課程編成に必要な基本的な理論・知識を学ぶ
 分析：で獲得した基本的な知識を基盤に、高い評価を得ている優れた学校実践・授業・教育活動から「カリキュラム」を分析する
 高い評価を得ている優れた学校実践・授業・教育活動をあらわした映像作品から、安彦の「カリキュラムの構成要素」を手掛かりにしながらカリキュラムを読み取り、なぜ、どこが具体的に優れているのか分析を行う。
 設計：を基盤として、学習指導要領や各種学校関係法令等を踏まえながら、グループ活動を通して自分の考える最良のカリキュラムを設計する
 理論・知識、実践を踏まえ、自身の考える「カリキュラム」の最適解を導く

- 第1回：ガイダンス、「教育課程論」の射程と学ぶ意義
- 第2回：〈講義〉「教育課程」と「カリキュラム」
- 第3回：〈講義〉学習指導要領と教育課程、学習指導要領と教科書
- 第4回：〈講義〉「カリキュラム・マネジメント」の理論
- 第5回：〈講義〉学習指導要領の変遷と今日の学校教育の課題
- 第6回：〈分析〉事例：オランダのイェーナプラン教育の実際
- 第7回：〈設計〉学校教育目標と育成したい生徒像の設定
- 第8回：〈分析〉事例：大阪府立西成高校の実践
- 第9回：〈設計〉子どもの貧困及び特別な配慮が必要な生徒へのカリキュラムの設計
- 第10回：〈分析〉事例：徳島県立の中等教育での実践
- 第11回：〈設計〉学習過程計画の設計
- 第12回：〈分析〉事例：田原部部の中等教育での実践
- 第13回：〈設計〉生徒指導・キャリア教育を視野に入れた学習活動計画（単元・学習指導案）の設計
- 第14回：〈分析〉事例：井本隆久の中等教育・私塾での実践
- 第15回：〈設計〉「生徒が前めりて面白いと感じる」学習活動の設計

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> E：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> W：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> G：グループワーク
<input type="radio"/> O：プレゼンテーション	<input type="radio"/> K：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> S：その他（A・L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

カリキュラムマネジメント及びカリキュラム開発の演習を伴う

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回の授業に対して、授業学生は授業準備（予習）と振り返り（復習）をそれぞれ2時間程度行うことを求める。具体的に、授業内容の事前把握、授業資料の作成に2時間（予習）、授業で取り扱った理論や知識、受講生からでたコメントに対する自身の考え等を整理することに2時間（復習）が必要。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

前学部では共通して「マーケティング、ブランド戦略、小売業界、流通に関する問題探索、課題提案ができる」資質能力の育成を目指している。
 高等学校専攻科は「ビジネスで必要となる実践的な働く力を身に付ける」ことが目的である。そのような資質能力を生徒に育成する教員となるべく、「問題探索」「課題提案」を随時授業を通して行い、DPで示す資質能力の育成を目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ポートフォリオのやり取りをデータで行う。
 また、授業資料については基本的にデータで配布し、授業中に行う共同編集作業についても持参したPCやタブレットを用いてウエブ上で編集作業を行う。

実務経験の有無及び活用

備考

本授業は教員免許状取得の必修科目となっている。